

## 令和2年度 事業報告

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、福岡県では2回の緊急事態措置が発令された。アクロス福岡でも主催公演等の中止や貸館の稼働率低下などの厳しい状況下ではあったが、指定管理期間（平成28年度～令和2年度）の最終年度として、「第4次中期経営計画」に基づき、業種別ガイドラインに沿った感染防止対策を徹底し、可能な範囲で事業を実施するとともに、利用者サービスの向上に努めた。

一方で、福岡県文化芸術振興条例（以下、「条例」という）が施行され、公立文化施設に求められる役割も大きく変化しており、これに対応するため、条例が掲げる「あらゆる人が等しく文化を享受できる環境整備」を実現すべく、令和3年度からの指定管理申請を行い、指定を受けるとともに、これに合わせ新しい運営指針となる「第5次中期経営計画」（令和3年度～令和7年度）を策定した。また、特別支援学校へのアウトリーチやコロナ禍で展示販売機会が激減した県内の工芸家等を応援するための企画をスタートさせるなど、来年度以降の事業につながるような取り組みも行った。

### I 組織・運営

公益財団法人としてコンプライアンスを遵守し適切な財団運営に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染防止対策としては、業種別ガイドラインに沿った感染防止対策の徹底や職場における感染防止対策に努めた。

また、次期指定管理に向け、時代の変化に対応できるような組織改正の検討をはじめ、研修や人事評価制度の運用等を通じた人材育成に取り組んだ。

#### 1 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度は2回の緊急事態措置を受け、在宅勤務や時差出勤をはじめ、シフト組替えや勤務場所以外の執務室の確保など「密」にならない取り組みを行うとともに、空気清浄機の設置や消毒の徹底など、感染拡大防止対策に努めた。

#### 2 財政基盤の維持

新型コロナウイルス感染症の影響で貸館の利用料金収入やチケット収入が減少する中、県と協議を行うとともに、各事業経費の節減に努め、財政基盤の維持に努めた。

#### 3 働き方改革関連法への対応

長時間労働是正につなげるため、業務の簡素化・効率化に加え、業務量に応じた適正な人員配置をするための業務量調査を実施し、その結果に基づき、限られた人員で効果ある運営・事業実施ができるよう組織改正を行った。また、勤務状況を適切に把握・管理するための勤怠管理システムを導入した。

#### 4 人材育成の推進

公立文化施設に求められる役割を共有するため、策定中の中期経営計画や事業計画等を周知する研修をはじめ、外部講師を招いての社会包摂の研修を実施した。また、組織強化を図

るため、階層別研修を実施したほか、職員の専門性の確保のための業務研修を実施するとともに、職員各自が業務目標を設定し、その結果を評価する人事評価制度の運用を通じて士気の高揚を図った。

## 5 広聴機能の充実

新型コロナウイルスの影響により、公演時の紙のアンケートについては実施できなかったが、窓口、電話、ホームページ等を通じて寄せられる県民や利用者の意見を的確に把握し、対応や事業の改善などを行うとともに、当該情報を財団全体で共有し、利用者の満足度の向上並びに新たな顧客確保に繋げた。

## 6 次期指定管理への対応及び第5次中期経営計画策定

令和3年度からの指定管理受託に向け、これまでの実績を生かしつつ、条例が求める社会包摂の視点を盛り込んだ申請を行い、指定管理者に指定された。また、この指定管理申請の内容に沿った「第5次中期経営計画」を策定した。指定管理申請・計画策定にあたっては、グループの枠を超えて議論するために設置した横断的なプロジェクトチームで出された意見や事業担当職員からの企画提案を計画に活かすなど財団全体で取り組んだ。

## II 施設サービス（貸館）事業

新型コロナウイルス感染拡大防止策としてイベント開催制限が行われ、施設のキャンセル料の減免や「イベント開催制限の段階的緩和の目安」を満たすために利用施設を変更した場合に差額を徴収しない等の対応をした。

また、施設内にサーモカメラ、空気清浄機や消毒液を設置、また受付窓口にアクリル板を設置するなど、感染防止対策を行った。

このような状況下において「中長期修繕計画」に基づく計画的な維持・保全に努めるとともに、日常的な防火・防災についての研修・訓練を実施し、防火・防災体制の強化を図った。

### 1 新型コロナウイルス感染症への対応

- (1) 福岡シンフォニーホール、イベントホール、国際会議場における入場時のサーモカメラ、その他施設における非接触型体温計の無料貸与により新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした措置を行った。
- (2) ホール楽屋、中小会議室、練習室に空気清浄機を設置した。
- (3) ホームページに新型コロナウイルス感染防止対策についての情報を集約したページを特設し、キャンセル料金減免措置の案内等を行った他、収容率50%で利用した場合の図面を掲載する等の紹介を行った。また、施設利用のガイドライン、キャンセル料金減免措置について個別に電話で案内するとともにメールにて周知を行った。

### 2 積極的な営業誘致

- (1) 主催者に対する事前の施設説明、打ち合わせや利用時のニーズ・要望等のヒアリングを実施するとともに、大規模大会等の実施においては、感染防止対策を主催者に提案するとともに、安心して実施できるような情報提供を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大にともない利用数が急増した「ハイブリッド会議」や「ウェ

ピナー」開催におけるノウハウを構築し、利用者に対して提案を行った。

※「ハイブリッド会議」：一室に集まって行う通常の会議（リアル会議、オフライン会議）と、Web 経由のオンライン会議が組み合わさったもの。

※「ウェビナー」：ウェブ（Web）とセミナー（Seminar）を合わせた言葉で、その名のとおり動画を使ったセミナーをインターネット上で実施すること。

〈大型イベントの開催件数〉

誘致内容	平成30年度	令和元年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (b-a)	令和2年度 キャンセル
学会・国際会議開催件数	67	68	8	△60	48 件
合同就職説明会開催日数	37	46	18	△28	17 日

※学会・国際会議については会議内容により実施日数が大きく異なるので件数で計上、合同企業説明会は日数で計上

### 3 利用者サービスの充実強化

- (1) 館内インターネットLAN回線の安定運用を目的とし、LAN回線内のHUBを更新するとともに、バックアップ用の予備回線を敷設した。
- (2) 老朽化していたセミナー室2のメモ台付き椅子を更新した。

### 4 施設機能の充実

- (1) 令和3年度からはじまる福岡シンフォニーホール、国際会議場の大規模改修工事に向けた実施設計への協力、これに併せて実施する舞台機構更新工事等の準備に関し福岡県と連携をはかった。
- (2) 防火・防災対策としてビル管理会社と共同で火災・地震発生時の初動対応訓練を実施するとともに、小グループ防災研修をはじめとした日常的な防災意識・防災体制の充実強化に向けた取り組みを行った。また、西館管理事務室スタッフを対象とした防災講習を実施した。

## Ⅲ 文化振興事業

「グローバルな感動体験」「芸術文化を支える人の育成」及び「参加・交流と地域文化の発信」という「3つの理念」に基づいて、主催、共催又は協賛により40事業を実施した。

令和2年度は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業計画の変更を余儀なくされた。海外からの演奏家は来日できず、鑑賞型の事業の大半が中止となった。不特定多数の観客を集めるような事業も実施困難となった。

一方で、業種別ガイドラインに沿った感染防止対策をしっかりと取りながら小学校へのアウトリーチを実施するなど、芸術文化に触れる機会を絶やさぬよう努めた。

### 1 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度当初は緊急事態措置を受け、県の要請に従い主催事業の中止・延期を行った。緊急事態措置解除後は、サーモカメラの設置等による入場時の体温チェックや消毒、適正な距離を保つための方策など業種別ガイドラインに沿った感染防止対策を徹底した上で、可能な範囲

で事業を実施した。更に、収容定員が100%に緩和された後も、主催事業については50%で実施するなど、感染防止対策に努めた。

## 2 「福岡・音楽の秋フェスティバル」の開催

秋の音楽祭として10月10日から11月17日まで管弦楽、室内楽など国内外の一流演奏家による公演をはじめ5事業を予定していたが、「アクロス・クラシックふえすた」のみ実施した。

### (1) アクロス・クラシックふえすた

気軽に音楽に接してもらおう事業として14回目となる「アクロス・クラシックふえすた」は、バックステージツアーや自由演奏会など参加型の企画はすべて中止し、九響やN響の公演などを客席定員の50%で実施した。

### (2) ラ・プティット・バンド → 中止

### (3) イツァーク・パールマン ヴァイオリンリサイタル → 中止

### (4) アンブロジーノ聖歌と声明による祈りの音楽 → 中止

### (5) プラハ放送交響楽団 → 中止

## 3 「夏休みこども企画」の実施

夏休みに合わせ、親子で参加できる展示会や体験教室、未就学児も入場できるオペラ公演などを予定していたが、そのほとんどを中止した。

### (1) 遊べる！デジタルアート展 → 中止

### (2) こどものためのオペラ「花咲かじいさん」 → 中止

### (3) 夏休みこども手作り体験（匠ギャラリーでの工芸品製作体験）

## 4 「学校キャラバン事業」の実施

県内の小学校へヴァイオリンやパーカッションなどのプロの演奏家を派遣し、出前授業を12回実施した。特に試行として取り組んだ特別支援学校対象のプログラムでは、児童はもちろん現場の教員からも大変喜ばれ高い評価を得た。

## 5 「新・福岡古楽音楽祭」の実施

県民に定着しつつある7回目の新・福岡古楽音楽祭を同実行委員会とともに実施した。

## 6 九州交響楽団との連携

九州交響楽団と連携して、ニューイヤーコンサートや定期演奏会支援のほか、「名曲・午後のオーケストラ」シリーズ等を共催した。

## 7 各種団体との連携強化

文化ボランティア団体との協働作業を通じて、地域の文化関係者の相互理解と関係強化を図る予定であったが、高齢のメンバーが多いため、感染防止対策の観点から連携を見送った。

## 8 地域・伝統文化等の振興

(1) 地域・伝統文化の活性化に寄与するため各事業を予定していたが、以下の通り変更した。

### ① 福岡和文化プロムナード 世界和太鼓フェスティバル → 次年度へ延期

### ② アンブロジーノ聖歌と声明による祈りの音楽 → 中止

- ③ 女性伝統工芸士展
- ④ かるた祭り2021 → 中止
- (2) 九州大学と連携した夏休みこども向けの事業の実施 → 中止
- (3) 共催・協賛事業の開催 → 一部中止・延期

#### 9 ファンの拡大とチケット販売の促進

友の会制度の見直しに伴い、新規入会と会員継続の停止を行うと同時に、新たな制度としてWEB会員制度を検討した。またほとんどの公演が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、客席定員の50%でのチケット販売となった。

### IV 情報提供事業

九州・沖縄、山口エリアの文化・観光の振興を図るため、各種媒体を活用して広く情報を発信した。また、福岡県が誇る伝統工芸品などをホームページやSNS、チラシなどを活用して広く紹介するとともに、文化活動者に作品発表の場や、県・市町村などが行う観光やイベントなどのPRスペースを提供した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初予定事業のうち中止したものも多かったが、緊急事態宣言解除後に文化を享受する雰囲気を醸成するべく、新たな追加事業も積極的に実施した。

広報・PR活動については、特にイベントの中止や変更などを情報誌やホームページを活用してタイムリーに実施した。

#### 1 時代の変化に対応した多彩な情報の発信

##### (1) 文化情報ラウンジにおける文化・観光情報の提供

- ① 九州・沖縄、山口エリアの音楽、美術、演劇に関する文化情報（チラシ・定期刊行物など）を収集し、2階の文化観光情報ひろばで提供した。また観光・イベントに関する情報の収集と提供を1階コミュニケーションエリア並びに観光案内所窓口で提供し、収集した動画や画像等は大型画面で放映した。
- ② 1階コミュニケーションエリアを活用し、県・市町村などの観光キャンペーンやイベント実施のためのPRスペースを提供した。
- ③ 1階観光案内所において、窓口を訪問する日本人並びに外国人利用者へ文化観光情報を提供した（窓口対応件数：1,499件のうち外国人対応件数：21件）。  
※緊急事態宣言への対応として4月20日～5月31日は窓口を閉鎖した。
- ④ 紙媒体だけでなくITを活用した情報提供を実施した。
  - ・ホームページにおいて、日本語のほか多言語で文化イベント情報を提供した。
  - ・メールマガジンやSNSを活用してタイムリーな情報発信を行った。
  - ・YouTubeを利用して公演や伝統工芸の動画を配信した。
  - ・イベント検索サイト「アクロスおでかけナビ」において、九州・沖縄、山口エリアの文化・観光やイベントに関する情報を提供した。しかしながら登録イベント数の減少、外出自粛の傾向もありサイトの閲覧件数は令和元年度から57.1%に減少した。

## 2 地域・伝統文化の紹介と活動支援

コロナ禍で展示販売の機会が激減している福岡の職人を応援するため、国や福岡県が認定する工芸品を中心に17品目を展示販売する「工芸品マルシェ」や縁起物をテーマにした工芸品の展示販売「お正月展 笑顔を呼ぶからくり人形と縁起物展」を新たに実施した。

### (1) 匠ギャラリーにおける福岡県の伝統的工芸品などの普及

- ① 伝統文化の継承と普及を図るため、匠ギャラリーにおいて、国指定伝統的工芸品7品目、県指定特産工芸品・民工芸品34品目を常設展示したほか、国指定7品目については、年2回の展示品の入替を行った。また、ギャラリー内の大型ディスプレイでは、7品目の制作工程を多言語（日・英・韓・中）で放映し、紹介した。
- ② アクロス主催企画展、伝統的工芸品企画展、県内を中心に活動する工芸作家企画展、子どもを対象にした夏休み子ども手づくり体験を開催した。（44企画実施）
- ③ 小学校などからの社会科見学を受け入れ、博多人形の絵付け体験を実施した。

### (2) 地域文化活動への支援

- ① 匠ギャラリー及びメッセージホワイエにおいて、県内を中心に活動する工芸作家、個人・団体の地域文化活動者に対する作品展示の場を提供した。（55企画実施）
- ② コミュニケーションエリアにおいて、県・市町村・学校・文化団体等に対する作品展示の場を提供した。（28企画実施）

### (3) 文化施設と連携した文化講座の開催

九州・沖縄、山口エリアの文化施設と連携し、当該施設で開催される企画展の事前レクチャー講座「アクロス・文化学び塾」を開催した。また音楽事業と絡めた「音楽学び塾」も新たに開設し好評を得た。新型コロナウイルスの影響で講座の中止が続くなか、講師に狂言師 野村万禄氏を迎え、実演を交えて狂言について学ぶ講座を新たに実施した。（17講座）

## 3 広報・PR活動

### (1) 効果的な広報の実施

- ① 情報誌「ACROS」を毎月発行し、主催公演・文化イベントの魅力をわかりやすく紹介し、館内、地下鉄などの交通機関、文化施設などにおいて、ポスターやパンフレットを掲示・配架した。
- ② 公演・イベント情報のほか当日のチケット情報、アウトリーチ事業、文化イベントに係る情報をホームページやSNSによりタイムリーに提供した。
- ③ 定例記者発表を開催したほか、県政記者クラブへの投込みなどパブリシティに努めた。

（広報掲載件数 665件）